平成２４年度第１回遺跡見学会

平成２４年６月２日（土）開催

八潮市 八條遺跡（はちじょう いせき）

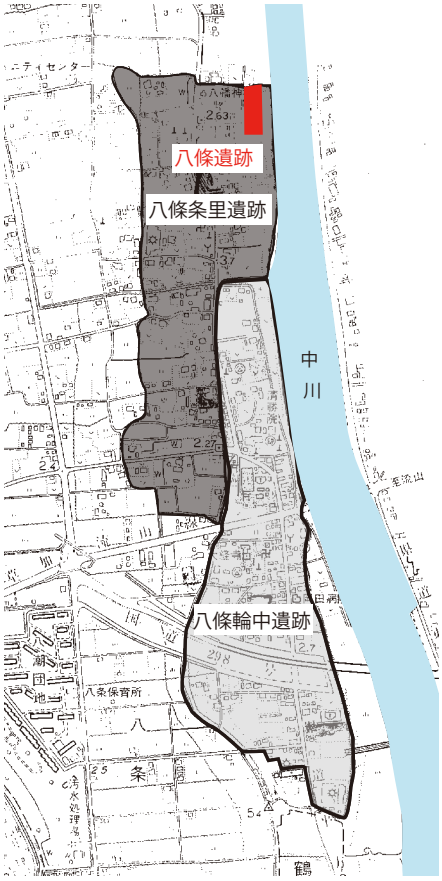
八條遺跡は、県南東部に広がる中川低地を流れる中川の自然堤防上にあります。遺跡周辺の標高は約３ｍです。今回、中川築堤工事に伴い、市内では初めての発掘調査が行われています。

調査では、奈良・平安時代の竪穴（たてあな）住居跡や中・近世の土壙（どこう）、溝跡などが発見され、多数の土器などが出土しています。

平安時代の竪穴住居跡からは、当時の役人のベルトを飾っていた帯金具（おびかなぐ）（丸鞆（まるとも）・鉈尾（だび））が出土しました。丸鞆と鉈尾が揃って発見されるのは珍しい例です。また、武蔵国（埼玉県内）だけでなく、下総国（しもうさ）（千葉県）や下野国（しもつけ）（栃木県）で作られた土器類も多数出土していることは、中川を介した古代の流通が盛んであったことを物語っています。

中世の土壙からは、短刀が出土しました。お墓に副葬されたものと考えられます。まわりには墓地が広がっていた可能性があります。

近世では、屋敷の「構堀（かまえぼり）」とみられる大きな溝跡が発見されました。遺跡の下流にある、「八條渡し」として栄えた八條の宿（しゅく）との関連も考えられます。



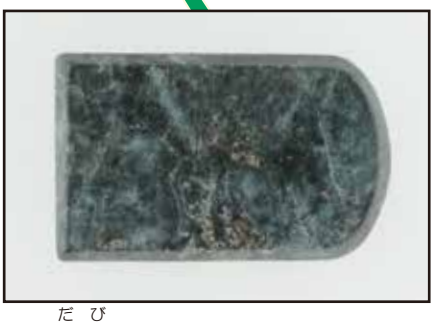
主催　公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催　八潮市教育委員会・埼玉県教育委員会
後援　国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所

第１号住居跡

第２号住居跡

第 18 号土壙

丸鞆（第２号住居跡出土）



鉈尾（第３号住居跡出土）

帯金具は奈良・平安時代の役人の革ベルト飾りで、身分の表示として採用されました。鉸具、丸鞆、巡方、鉈尾（下図参照）などで構成されています。奈良時代には、金属（主に銅）製の地に、黒漆を塗ったものと、金銀を貼ったものがありました。身分によって相違があり、それぞれ腰帯を締めることが決められていました。平安時代には、石製のものに変わります。埼玉県内では、将監塚遺跡（本庄市［旧児玉町］）、氷川神社東遺跡（さいたま市［旧大宮市］）などで出土しています。

帯金具　　奈良時代の腰帯の名称（模式図であり実際の長さ配置等は不明なことが多い。）